

10月13日「富とどう向き合うか？」ヤコブ書2：1～9、ルカ福音書16：19～31

今日は、神学校日ですので、説教の最初にこの夏に来られた夏季派遣神学生からの便りを紹介します。

「私は元気に、感謝で溢れる日々を過ごしています。秋学期が始まり、一ヶ月が経ちました。大学院では本格的に修士論文について向き合わなければいけない時期になり、焦りを感じていましたが、やっと道しるべが見えてきました。教会では、夏期教会実習で得た学びを発揮できる機会が増えました。先日も私の通う教会学校の子どもの前でお話しをさせていただき、13日の今日は日本基督教団福島教会で奨励をさせていただくことができました。多度津教会の皆さまが私にしてくださったように、私もいろんな人と神様の愛を分かち合いながら一日一日を歩んでいきたいと思えます！」どうぞ、これからも、牧師になろうと献身する方々のために、また養成機関である各神学校のためにお祈りください。

さて、今日は、先週に引き続き「富」がテーマです。平たく言えばお金でしょう。お金は便利なものです。これは人類が飛躍的に発展した発明の一つだと思います。お金は価値を均等にしてくれます。北海道と沖縄のように離れた場所の物の交換はお金によって可能になります。100年前の骨董品と最新家電の交換もお金によって可能になります。接客やサービスなど目に見えない物もお金によって受けることができます。さらにお金は貯蓄を可能にしました。お金（富）は私たち人間の交流の幅を大きく広げてくれたのです。

ところが、イエス様はあまり富（お金）に対して肯定的ではなかったようです。今日はルカによる福音書からラザロと金持ちの譬えを聞きました。ある金持ちの家の前にラザロというホームレスが居た。彼はみずぼらしい身なりで、金持ちの家の食卓からこぼれ落ちるものでも良いからお腹を満たしたいと願っていた。犬でさえもラザロをなめました。結局、ラザロは死んでしまったが、彼は神の国ではアブラハムのすぐそばに連れて行ってもらえます。同様に金持ちも寿命によって死にますが、彼に待っていたのは地獄で火に焼かれることでした。金持ちはアブラハムにラザロを通して水の一滴でも頼みますが、アブラハムはこう答えた。「子よ、思い出してみるがよい。お前は生きている間に良いものをもらっていたが、ラザロは反対に悪いものをもらっていた。今は、ここで彼は慰められ、お前はもだえ苦しむのだ。」このたとえ話が、言いたいことははっきりしていると思います。「ルカ 18:25 金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい」ということです。

ルカによる福音書には他にもイエスが富に対してかなり厳しかったことが伺える言

葉が残されています。愚かな金持ちのたとえ、先週一緒に聞いた不正な管理人のたとえ。良く知られた幸いの言葉はルカではこうなっています。「6:20～ 貧しい人々は、幸いである、／神の国はあなたがたのものである。今飢えている人々は、幸いである、／あなたがたは満たされる。6:24 しかし、富んでいるあなたがたは、不幸である、／あなたがたはもう慰めを受けている。今満腹している人々、あなたがたは、不幸である、／あなたがたは飢えるようになる。」そして、極めつけが今日お聞きした、金持ちとラザロのたとえです。この話ではあまりにもはっきりと金持ちは地獄に、貧しい者は天国に行くと言われていました。現代、日本に住んでいる以上、私たちは豊かさと無縁ではられません。イエスの富への批判をどう受け止めれば良いのでしょうか？

お金というのは便利で素晴らしい発明だったと思います。でも、だからこそ、お金は私たちの心の多くの関心を占めるようになりました。そしていつの間にか、私たちは神さまよりお金の方が大切になってしまったのです。神さまから与えられたのちよりお金のほうが大切になってしまったのです。たとえば、現代の私たちの社会はどうでしょう？人間の尊厳よりも経済発展の方が大切にされていないだろうか？ブラック企業、一人一人の働き人の尊厳よりも会社の発展、富の集積の方が優先されています。イエスは富のそんな危険性に警鐘を發したのです。

特に私たちキリスト者が気を付けるべきことは、拝金主義者が必ずしも、聖書を捨てた無神論者と結びつくわけではないということです。神学の枠組みの中で、つまり神さまを信じているようにみせかけながら、金を愛することが出来るのです。それは聖書のこんな言葉を信じることです。申命記 28 章「もし、あなたがあなたの神、主の御声によく聞き従い、今日わたしが命じる戒めをことごとく忠実に守るならば、あなたの神、主は、あなたを地上のあらゆる国民にはるかにまさったものとしてくださる。あなたは町にいても祝福され、野にいても祝福される。あなたの身から生まれる子も土地の実りも、家畜の産むもの、すなわち牛の子や羊の子も祝福され、籠もこね鉢も祝福される・・・」神の命令を守る者には神の祝福があり、子孫は栄え、財産は増え、敵は打ち倒されていくだろう。つまり富を持つ＝神の祝福＝神の命令に従っている正しい者ということです。逆に言えば、この世での成功者は神に愛されており、この世で貧しく、苦難の中に居る者は神への敵対者ということになってしまうのです。

今日の金持ちとラザロの譬えの前には、金に執着するファリサイ派の人たちがイエスをあざけったと書かれています。どうしてか？この申命記の教えを受け取っていたからです。「なぜ貧乏人たちを助けなきやいけないのか？あいつらは神に逆らう罪人だぞ！」そうあざけったということです。イエスはそのような聖書的な裏付けを得た貧しい人た

ちへの差別を厳しく批判しました。それは、私たちが最も大切な掟「神と隣人を愛しなさい」から遠ざけるものだからです。

申命記には他にもっと大切な教えがあります。「申命記 14:28~29 三年目ごとに、その年の収穫物の十分の一を取り分け、町の中に蓄えておき、あなたのうちに嗣業の割り当てのないレビ人や、町の中にいる寄留者、孤児、寡婦がそれを食べて満ち足りることができるようにしなさい。そうすれば、あなたの行うすべての手の業について、あなたの神、主はあなたを祝福するであろう」申命記に繰り返される言葉です。共同体のなかの孤児・寡婦・寄留の民（難民）の生活と権利を守るように。それが神さまの喜ばれることだと！なぜなら、神さまはエジプトで奴隷だったイスラエルの民を救い出されたからです！アモス、イザヤ、エレミヤ、多くの預言者たちはこのことを告げました。けれども、金を愛する金持ちも、その家族（そこに暗示されているファリサイ派たち）も、自分たちを肯定する聖書の言葉は喜んで、律法や預言者の言葉には耳を貸さなかったのです。

このファリサイ派たちの姿勢は私たちも陥りうるものです。「成功の神学」といいますが、この世での成功が神の祝福、失敗を裁きだと受け止める。アメリカの現大統領の信じている神学らしい。日本の教会への批判として、インテリの宗教だというものがあります。日本の教会のメンバーは「先生」呼ばれる職種の人ばかり、上流階級のサロンになっているという批判です。真摯に受け止める必要があるでしょう。

今日もう一箇所聞いた、ヤコブ書もお金の危険性を伝えています。教会のなかで、イエスを信じる共同体のなかで、貧富の差による差別はあってはならない！と。人の価値はその人が持っているお金の量で測れるのか？そんなことはないはず！私たちはお金なんて言う人間の尺度では到底測れない価値を神さまから与えられているはずです。けれども、お金の執着するとその最も大切な神さまから与えられた価値を軽んじてしまうことに繋がるのです。「2:5 わたしの愛する兄弟たち、よく聞きなさい。神は世の貧しい人たちをあえて選んで、信仰に富ませ、御自身を愛する者に約束された国を、受け継ぐ者となさったではありませんか。」「人を社会的な身分で差別してはならない」今でこそ当たり前ですが、ヤコブ書のこのメッセージは2000年前には画期的だったでしょう。奴隷がいて、ローマ市民とそうでない人、明確に権利に差がある時代です。社会的な身分で差別をしない方が間違っていたのです。それでも、たとえ世がそうであってもキリスト教会はそうではない道を行くことを決めたのです。世の中とは違う道を歩むことを決断したのです！パウロの言葉です

「ガラ3:26~ あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なの

です。そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。」

現代、日本に住む以上「富」、豊かさから全く逃れることは難しいと思います。私が大きな影響を受けた人の一人に本田哲郎神父がいます。カトリック教会で有望な未来が約束されていたのにすべての富や、約束された地位を捨てて釜ヶ崎でホームレスの人たちと一緒に生きる道を選んだのでした。正直に言って、同じことはようやらないと思いました。じゃあ、どうすれば良いのか・・・？今日のたとえではあきらかに貧しい者が天国に行き、金持ちが地獄に行くという二元論で語られていた、富をそこまで単純に割り切れないことをルカ福音書は分かっていたようです。ルカ福音書にも金持ちが救われる物語が描かれているのです。そう、ザアカイです！またイエスや初代教会の働きを経済的に支えたのは資産家の女性たちだったようです。

富への執着は金持ちだけの問題ではありません。時々、教会にお金を求めて来る人がいます。中にはだまし取ろうとしたり、脅迫する人もいます。私も貸したお金が返ってこなかったことがありました。イエスは貧しい人たちに対してもこう教えている。「命のことで何を食べようか、身体のことでは何を着ようかと思ひ悩むな！」イエスは貧しい人達もまた、富への執着から逃れられない現実を知っていたのだろう。きっとイエスが説いたのは単純な金持ち批判ではない。富への執着を批判した。それは貧しい人達も含めてすべての人に必要なことだったのです。そしてそこから自由になるたった一つの方法も教えられました。分け合う道です。イエスはパンを、食事を、そしてご自分の命さえもすべての人と分け合ったのです！

今日は神学校日なので最後に自分の話を。私にとって牧師になることは貧乏になることだった。親を見て知っていた私はそれが怖かった時期がありました。都会の裕福な教会で富によって傷つく経験もしました。ですが、アメリカに行ったときに10人に満たないとても小さな教会で生き生きと牧会をされる牧師たちと出会った。そこで、お金がないことは恐れることではないと知った。分け合うならば自由になれることを私はアメリカのキリスト者たちの小さな群れから学んだのです！イエスは私たちが富に支配されるのではなく、富を用いて豊かになっていく道を説きました。「分かち合うなら豊かになる。奪い合うなら足りなくなる」のです。私たちは今も、その道を選ぶように招かれているのです！